

## A.2.4 水リスクの評価ツール

「CDP 水セキュリティ レポート 2019：日本版」によると、CDP からの質問に回答した企業の多くは水リスク評価ツールを利用しており、その中でも、世界自然研究所（WRI）が開発した WRI Aqueduct（120 社）と、世界自然保護基金（WWF）とドイツ投資開発公社（DEG）が共同開発した WWF Water Risk Filter（37 社）を利用する企業が多いとされています。これらの評価ツールは、公的機関の公開情報や査読付き論文などをベースとしており、世界的にも広く活用されています。また、気候変動による変化を考慮する機能もあり、複数のシナリオに基づく将来の水リスクの変化を評価できることから、気候関連のシナリオ分析に活用することもできます。

WRI Aqueduct と WWF Water Risk Filter は、ともにオンラインで提供されている公開ツールであり、無料で利用することができます（Water Risk Filter は登録が必要）。また、世界全体をカバーしているため、ユーザーは評価したい拠点の住所/緯度経度を入力するだけで、その拠点が位置する地点（流域）の水リスクに関する様々な指標を定性・定量的に求めることができます。2つのツールでは、それぞれに固有の水リスク指標が提供されていることから、ユーザーは自社の水リスク評価の目的に合わせて活用することができます。2つのツールで類似した指標がありますが、根拠としたデータなど前提条件が異なることから、評価結果も異なります。両者が同様の評価結果が得られた場合には、信頼性が高いと判断する事ができ<sup>8</sup>、また、結果が異なる場合には、前提条件等の違いによって水リスクの不確実性が高い可能性があることを認識することができます。

	WRI Aqueduct 3.0	WWF Water Risk Filter 6.0
流域の水リスク評価指標	物理的（10 指標） 規制と評判（3 指標）	物理的（13 指標） 規制（12 指標） 評判（7 指標）
気候シナリオ	SSP2-RCP4.5（楽観的） SSP2-RCP8.5（成り行き） SSP3-RCP8.5（悲観的）	SSP1-RCP2.6/4.5（楽観的） SSP2-RCP4.5/6.0（現在のトレンド） SSP3-RCP6.0/8.5（悲観的）
評価対象年	現在、2030 年、2040 年	現在、2020 年、2030 年、2050 年
個別企業の評価に役立つ特徴的な機能	マップ（画面）上で、拠点の位置をクリックするだけで位置を特定できる。 各評価指標に任意に重みづけをして、企業が重視するリスク等、実態に応じた評価が可能	評価対象とする地点（拠点）別に、産業部門や製品、水リスク評価指標に関する実態（取水量や水質、規制・評判に関する事項など）を入力（プルダウンメニュー方式）できるため、より実態に即した評価結果が得られる。
流域スケールでの空間解像度 <sup>1</sup>	HydroSHEDS の HydroBASINS Level 6	HydroSHEDS の HydroBASINS Level 7（全世界） Level 12（特定の国や地域）
データ更新頻度 <sup>1</sup>	2 年ごと	毎年

HydroSHEDS: アメリカ地質調査所（USGS）が公開している全球規模の水文学的データセット

<sup>8</sup> Right Tool for the Job, WWF & WBCSD (2020)